

実技試験について

受付	<ul style="list-style-type: none"> ■ 試験当日の受付は試験開始の30分前から行います。受験票を受付に提出してください。(受付後、受験票はお返します) ■ 遅刻については一切認めませんので注意してください。
試験前確認	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受付で渡されたバッジと同じ記号のベッドで脱毛器の設置等準備をしてください。受験者持込の備品類も脱毛を行いやすい位置に設置してください。 ■ 会場に用意してある以下の備品類を確認してください。 ハサミ(滅菌バッグ開封時に使用)、ペーパーシート、ビニール袋(ゴミ袋)、プローブ廃棄容器 ■ ベッドやワゴンは施術しやすいように多少動かしても構いません。 ■ 開始5分前に会場スタッフが声を掛けますのでモデルとベッド脇に待機してください。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 試験会場へは受験票を忘れずにお持ちください。 ✓ 受験票は試験官が見やすい所に置いてください。試験後、受験票はお持ち帰りください。 ✓ 携帯電話の電源は必ずOFFにしてください。(受験者・モデルともに) ✓ 受験者、モデルの貴金属は全て外してください。 ✓ 受験者、モデルともに貴重品は試験会場にお持ちください。

【実技試験の流れ】 以下①からは試験開始後、試験官の指示に従って行ってください。

① ペーパーシートの準備 モデルの準備	<ul style="list-style-type: none"> ■ ペーパーシートを敷き、モデルをベッドに誘導してください。
② 身だしなみ採点 ③ 脱毛技法、滅菌・消毒の確認	<ul style="list-style-type: none"> ■ 会社、サロンの清潔なユニフォーム、白衣等で受験してください。作業に支障をきたすような身だしなみ、明らかにエステティシャンとしてふさわしくない身だしなみであると試験官が判断した場合は減点の対象となります。 ■ 靴はフットペダルを踏み易い、ナースシューズのようなものを履いてください。かかとの高いものは減点となります。裸足及びスリッパでの受験は不可です。 ■ 爪は清潔であること。長さは手掌より見て指より上に伸びていると減点となります。マニキュアも減点です。 ■ 髪は清潔にし、肩より下に伸びている場合は必ず後ろで結んでください。前髪は目の位置より下まで垂れないようにしてください。髪の色は採点の対象にはなりません。 ■ 行う脱毛技法(ブレンド法または高周波法)、持込備品の滅菌・消毒方法及び、使用する消毒剤について口頭で確認します。
④ フットペダル、 ライト等の配置	<p>フットペダル等をセットし、ライトの位置を決めてください。</p>
⑤ 手洗い ⑥ 手指消毒	<p>手洗い場には薬用石鹸、ペーパータオルが用意されています。手洗いは、手指だけでなく肘まで洗ってください。又、手洗い後の蛇口、ドアノブ等の開け閉めはペーパータオルを使用してください。握り導子を使う場合は、この時に濡らしてください。</p>
⑦ 機械、器具の消毒	<p>脱毛器、ハサミ、各種器具、消毒容器の蓋、ライトの笠、脱毛器やライトのスイッチ等、手の触れるところはすべて消毒してください。眼鏡等も消毒します。</p>

⑧ 握り導子の設置、
グローブ、眼鏡等の装着

グローブは装着後、消毒してください。
必要に応じ、眼鏡等を装着してください。

滅菌バッグ開封
⑨ 滅菌トレイにツイーザー
を置く

■滅菌トレイには、滅菌済みのツイーザー及びプローブのみを置いてください。
■受験者が各自で用意するツイーザーは必ず滅菌済みのものとし、正しい滅菌の取り扱いをしていないと試験官が判断した場合、減点の対象になります。
滅菌については、別紙の「美容電気脱毛における滅菌・消毒及び実技試験受験者の持込備品について」を必ずお読みください。

⑩ トリートメントエリアの消毒

手指、施術部位はできるだけ広い範囲で消毒してください。
未消毒部位に手指が触れた場合、減点の対象となります。

⑪ プローブの装着

直接手指で装着した場合は減点になります。滅菌済みツイーザーを用いるか、プローブを包装しているパックを利用し装着してください。

⑫ 手指消毒

コットンで再度、手指消毒をしてください。

⑬ 電流設定、施術開始

試験では電流設定をするところから採点しますので、電流設定を始める際は、高周波利用での秒数設定から施術を行ってください。

⑭ 実技（約20分）

■電流設定
ブレンドの場合、明らかに直流、高周波の電流設定のバランスが間違っていれば減点になります。又、ブレンド法、高周波法ともに処理した毛が適正に抜けない場合や、適正に抜けていても処理中に皮膚表面が不必要にふくらんだり、白くなったり、あるいは水疱ができるような場合は、電流設定のバランスが不適切ということになります。

■挿入の基本
一本一本の毛とプローブが沿うようにスムーズに挿入されていればOKです。明らかに方向、角度が間違っている場合はもちろん、無理に挿入している、刺しているといった感じがあれば減点対象になります。又、電流設定が適正であるにもかかわらず、抜け方が悪い場合も、挿入の基本に問題ありと見なすことがあります。深度は、ブレンド法の場合は処理しているグループの毛の成長期後期に合わせてください。高周波法(マニュアル・フラッシュ)の場合は、通電時間、強度、プローブサイズ、毛のステージに合わせて深度を変えて構いません。

■挿入リズム
本数を競うものではありませんので、落ち着いて一本一本確実に処理して構いませんが、あまりにも毛から毛への移動に手間取る、処理した毛が少なすぎる場合はリズムが悪いと見なす場合があります。

■処理毛
処理した毛は、消毒剤で十分湿らせたコットン上に必ず並べてください。できるだけ成長期の毛を選んで処理してください。モデルの施術部位上にコットンを置いても構いません。処理毛の状態を試験官がチェックし、挿入リズムの参考にしますので処理毛をバラバラにしないでください。並べておいたコットンを落としてしまったり、並べていた毛が手についた時は、すぐに試験官に知らせてください。

■施術中の衛生
施術中に触れる可能性のある所は予め全て消毒しておいてください。施術中に髪の毛や皮膚、眼鏡等に触れた場合は消毒剤で必ずグローブを消毒してください。落とした場合に備えてツイーザー、プローブ等は予備のものを用意してください。

⑮ 試験終了 毛と皮膚の採点	処理した範囲の皮膚の状態及び毛の抜け具合を採点します。
⑯ 施術箇所の消毒	施術部位の消毒を行なってください。消毒剤は受験者持込のものを使用してください。
⑰ グループ面談 (口頭試問)	全体で10～15分程度のグループ面談を行います。モデルの方は退出し、受験者は試験官の指示に従ってください。美容電気脱毛に関する知識や技術についての口頭試問です。
⑱ 片づけ	脱毛器を持込みした方は備品等忘れ物の無いようにしてください。消耗品等を会場設置のごみ袋に捨て、ベッド周りを確認してから退出してください。

【その他注意事項】

	下記の行為は 危険行為 とみなされ、減点の対象となりますので注意してください。 ■プローブをプローブ廃棄容器以外に捨てる ■素足での施術 又、接客業として不適切と見なされた場合や、試験官の指示に従わない場合も同様に減点となります。
① 危険行為について	
② 試験中に物を落とした時	■ツイーザーを落とした場合 拾わずに予備のもので対応してください。予備も落とした場合は会場で購入してください。 ■プローブを落とした場合 試験官に申し出てください。試験官が処分します。 ■これら以外のものを落とした場合 拾わずにそのまま試験を続行してください。 ※いずれの場合も試験官に知らせてから続行してください。
③ セッションの取り扱いについて	万能ピン及びセッションを使用する場合は、万能ピンの蓋をセッションで開ける行為は減点対象となります。
④ 試験中のマナー	試験官は受験者の技術だけではなく、エステティシャンとしてのマナーも見ています。試験中は厳粛な気持ちで試験に臨みましょう。又、試験中、受験者とモデルとの間でアドバイス等不正行為とみなされる会話が確認された場合は不合格となりますので注意してください。 試験会場及び館内では周りの迷惑にならないよう私語は慎むようにしてください。
⑤ 脱毛器とプローブについて	貸出用脱毛器を使用する場合、その脱毛器に当日使用するプローブが対応するかを予め確認してください。会場ではプローブの用意はありません。
⑥ 脱毛モデルについて	■脱毛モデルには、採点しやすい成長期の毛の多い人、毛量が十分ある人を選ぶようにしてください。 脱毛する部位は問いません。モデルは男女どちらでも構いません。 又、モデルは受験者一人に対して一人必要です。 ■モデルの服装は特に問いませんが、受験者が施術しやすいように、脱毛部位によっては着替えやガウン等を用意してください。 ■相モデル受験を申し込まれた場合、事務局で受験時間の調整をします。事務局から返送された受験票の受験時間が相モデルとなる方と分かれていることを確認してください。

挿入深度測定方法について

正しい深度を測定する為には、美容電気脱毛をして抵抗なく抜き取った成長期後期の毛を使います。美容電気脱毛をしていない毛包から抜いた毛では、正確な深度が得られません。以下（マイケル・ボノ著「The Blend Method」日本語訳版 日本スキン・エステティック協会発行より抜粋）を参照してください。

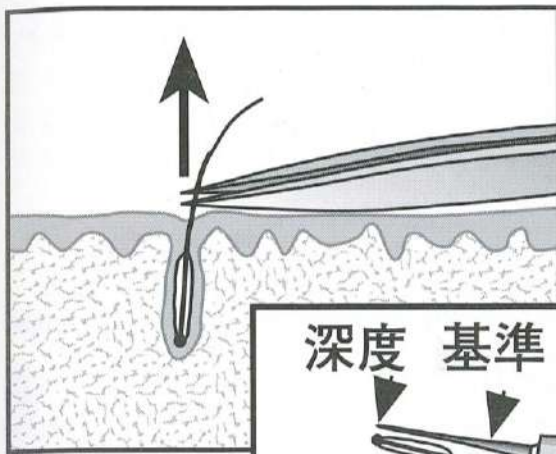
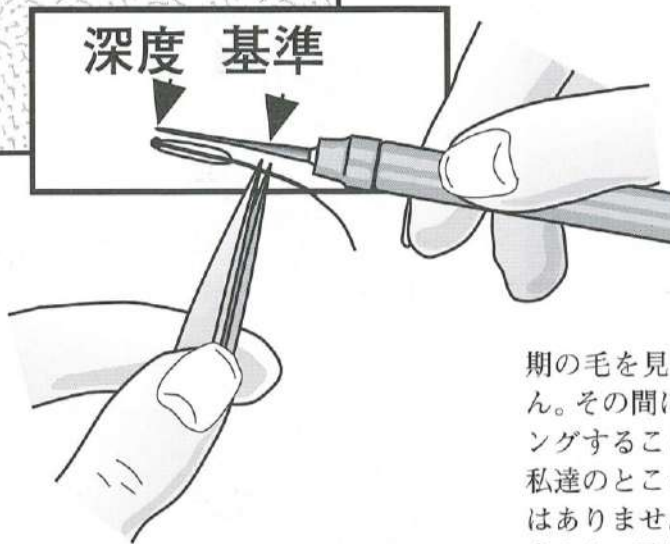


図 12

成長期の毛根と毛幹が「深度基準」です。電気脱毛した毛をプローブの隣に置き、挿入の正確な深さを確立します。



深度基準にするために毛をツイーザーで抜いてはいけません。成長期の毛をゲージとして使用することを思い出してください。「正しい」成長

期の毛を見つけ出すのに数分かかるかもしれません。その間に多数の休止期や退行期の毛をツイーディングすることになります。顧客は永久脱毛のために私達のところに来るのです。ツイーディングが目的ではありません。ツイーディングは鞘をヒダ状にもしますから、正確に電気脱毛した成長期の毛よりいくぶん短い毛根を示します（36 ページ）。



深度の基準を確立する

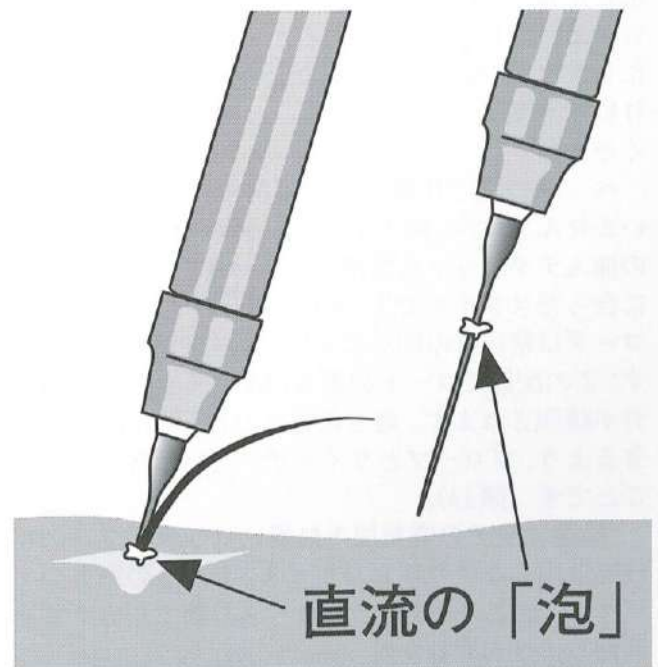
トリートメントを始めて数分たつと成長期の毛を何本か電気脱毛しているでしょう。同じように見える成長期の毛に挿入し、十分に毛包を破壊させます。毛包からプローブを取り除きます。ツイーザーを皮膚のレベルに置き、毛をつまんで、抜き取ります。電気脱毛した毛根と毛幹が深度基準です（図 12）。

電気脱毛した毛をプローブの隣に置き、プローブの正確な深さを記憶します。このトリートメントエリアの同等のサイズの毛全てについて、この深さに挿入します。毛根と毛幹の両方を確実に判断に含めてください。正確な深さゲージは毛球からツイーザーが毛をつまんだところまで伸びています。（毛幹を削除するのはありがちな誤りです。）

トリートメントを続けていくと、直流の「泡」が少量、ちょうど毛孔部でプローブに付着します（図 13）。この残留物を正確な挿入の深さの指標として使用します。何回かするとあまりに大量の泡が蓄積して指標が不正確になります。残留物が多すぎたらツイーザーでつまみ落とします。

図 13

直流の「泡」の残留物がプローブに付着し、これを深さの指標として用います。



実技試験 減点事例

以下の行為は、実技試験において減点の対象となります。受験する方は参考にしてください。

	減点の事例	理由・対処法
1	滅菌トレイの中を触る	トレイの内側を触ることで、滅菌した意味が無くなる。(触った瞬間から滅菌状態ではなくなる)
2	滅菌トレイに未開封のプロープを袋ごと置いた	滅菌トレイに置くことができるのは滅菌済みのものに限る。
3	滅菌トレイにツイーザーを容器ごと置いた	
4	滅菌の意味を理解していない	※別紙「美容電気脱毛における滅菌・消毒及び実技試験受験者の持込備品について」参照
5	必要のない部分まで消毒し、時間がかかる	限られた時間内に、脱毛中に触れるであろう部分だけを手際よく消毒すること。
6	エタノール消毒でモデルの肌が真っ赤になっていた	事前にお客様の状態(体質)を把握しておくことは、脱毛するための必須条件。 エタノール以外の消毒剤で行うべき。
7	手指消毒後に未消毒の場所に触れた (例：未消毒のイス、ワゴンなど)	手指消毒の後は、ペーパータオルかティッシュペーパーを持って行くこと。
8	機械の確認をしていない	機械の確認をフットペダルを踏み込んだ時に行うのが鉄則。 通電の有無、機械の変化に素早く対処が出来ること。
9	挿入が不安定	しっかり固定しないと肌への負担と未処理につながる。 プロープを挿入して電流を流している時、プロープを安定させて皮膚が平らなままであることを確認すること。
10	方向・角度が違う	毛の方向は1本の毛だけを見るのではなく、施術部位全体の毛流を見て判断すること。 毛孔から出ている毛の角度にプロープの角度を合わせること。
11	挿入が浅い	皮膚表面への熱の影響が大きく、水疱などの皮膚トラブルの原因になる。 また、熱原型が脱毛処理のターゲットからずれている。
12	挿入が強引すぎる	強引な挿入で皮膚が傷つき、プロープを押し付けることにより皮膚トラブル(水疱など)になり危険である。 くぼみができるような固定をすると、皮膚に圧力がかかる。 プロープを完全に挿入し表皮が平らになるようにプロープを軽く戻すと、通電した時にプロープの深度が深くなるのを防ぐことができる。
	皮膚へへこみが見られる	
	挿入時にプロープを押しつけている	
13	挿入後、毛をつまむのが早い	早くつまむのは、脱毛処理が完了しないうちに毛を引っ張ることになり、十分な脱毛効果が得られない。
14	挿入のやり直しが多く見られた	一つの毛孔に対して、何度も挿入するのは毛の方向の見極めが出来ていない。 また、それにより皮膚をへこませている。
15	深度測定を理解していない	何のために、深度測定を行うかを理解しなければ、正しい脱毛が出来ない。(未処理になる) ※深度測定とは、成長期後期の一番深い毛包を持つ毛を選んで脱毛し、適正な挿入深度を測ること ※別紙「挿入深度測定方法について」参照
16	脱毛のリズムが悪い	脱毛施術者として無駄の無い脱毛を行うこと、素早く毛を見極め処理することが求められる。 毛包から次の毛包へ連続して挿入するのが理想的。処理をしている間に次の毛を探す。
17	オーバートリートメント	皮膚を損傷することなく脱毛することが基本である。 オーバートリートメントになる場合は即時、脱毛を中止する。危険と判断されるような脱毛は行わないこと。
18	ユニット計算が出来ていない	ブレンド法では、アルカリユニットの判定とユニット計算が出来なければ、正しい脱毛は出来ない。(未処理になる) 脱毛に必要なアルカリユニットの判定と高周波の時間によって、直流電流値を決定すること。 ※「美容電気脱毛実技理論」テキスト又は、「美容電気脱毛認定試験 テキスト・問題集」(ブレンド法のページ)参照
19	プロープがツイーザーに当たっていた	ツイーザーとプロープが接触すると高周波電流が影響を受けて、十分な脱毛効果が得られない。
20	施術中の姿勢(ポジショニング)が悪い	施術の姿勢(ポジショニング)が悪いとプロープを持つ手にも負荷がかかり、スムーズな脱毛が出来ない。
21	緊張により手の震えが最後まで止まらない	試験官は受験者が過度に緊張しないよう配慮し試験を行うが、仮に緊張状態であっても通常の脱毛が行えるよう、日頃から十分な練習を行うこと。
22	最後にプロープを外し忘れていた 廃棄容器以外のものに捨てた	プロープは脱毛終了後に直ちに外し、廃棄容器に捨てること。
23	モデルの毛が細い毛や休止期の毛しかない	技術の確認や脱毛後の肌のチェックがしづらい。受験においては、チェックを受けやすいモデル選びをすること。